

事例研究論文とディスカッションを用いた授業実践

学校臨床心理専攻・信原孝司

1. 授業の概要（目的・到達目標）

本授業は、前期の臨床心理面接特論Ⅰを踏まえ、特に事例研究の視点から心理面接（力動的心理療法）への理解を深めることを目的としている。また、到達目標は心理臨床の基本的な知識と面接技術を習得し、実際の心理臨床場面に応用できるようになることである。

2. 導入

授業初回では、今後の授業予定を学生に周知徹底し、学生が今後の見通しを持って授業時間外学習に取り組めるようにする効果を期待している。今年度は、以下の授業内容で実施した。

- 第 1回 オリエンテーション
- 第 2回 事例研究と心理臨床
- 第 3回 臨床心理事例 1 【不登校】
- 第 4回 授業者の補足 1 【不登校】
- 第 5回 臨床心理事例 2 【神経症】
- 第 6回 授業者の補足 2 【神経症】
- 第 7回 映画を通して臨床心理面接を考えるⅠ
- 第 8回 ディスカッション
- 第 9回 臨床心理事例 3 【パーソナリティ障害】
- 第 10回 授業者の補足 3 【パーソナリティ障害】
- 第 11回 臨床心理事例 4 【心的外傷】
- 第 12回 授業者の補足 4 【心的外傷】
- 第 13回 映画を通して臨床心理面接を考えるⅡ
- 第 14回 ディスカッション
- 第 15回 振り返り・レポート提出

3. 授業の方法と形態

1回目、2回目の授業は、授業者がオリエンテーションを兼ねて講義形式で施行した。具体的には、1回目では「相談者に役に立つとはどういうことか？」と題した問い掛けを行い、前期授業Ⅰの復習をしながら、後期授業の予定に触れた。2回目は、「事例研究と心理臨床」のテーマで授業者が講義しながらディスカッションを行い、事例理解の大切さや事例研究の意義について理解を深めた。

臨床心理事例 1～4 は、履修生が不登校・神経症・パーソナリティ障害・心的外傷から自発的に

担当テーマを選んでもらった。そしてそのテーマに関する事例研究論文に沿った発表レジュメを授業時間外学習として作成し、当日の発表と履修者とのディスカッションを行った。

授業者からの補足 1～4 では、特に、臨床心理事例での発表で取り上げられなかった、あるいは希薄であった領域や重要な内容を中心に取り上げた（講義形式とディスカッション形式で授業を行った）。

その他、映画を通して臨床心理面接を考えるⅠ・Ⅱでは、『秋のソナタ』と『Another Woman』（邦題『私の中のもう一人の私』）の映画を取り上げ、視聴とディスカッションを行った。

4. 授業を振り返って・アンケート結果

履修生が提出したレポート中の授業評価を中心に、授業を以下に振り返った。

コメントでは、事例研究論文に数多く触れる機会を持って今後の実践に有意義であったとのコメントが多かった。その一方で、発表とディスカッションとの時間配分に課題残った、発表で事例研究論文にもう少し時間を割きたかった等とのコメントもあった。授業者側の工夫としては、おおよその時間配分を事前に指示おくことや、授業時間外学習に取り組みやすくするよう、発表で取り上げたいキーワードを事前提示すること等が考えられた。また、自分達が担当でない時の授業時間外学習が希薄とならないような工夫も必要と思われた。

授業形態では、授業者からの講義、担当グループの発表と授業者からの補足講義をセットにし、心理臨床課題を考える映画の視聴とディスカッションという全体構成は支持が多かったので、今後もこの授業形態を継続したい。

授業は履修者の授業時間外学習もあって進行はスムーズであった。ただ、取り上げるテーマや発表グループの取り上げ方によっては、ディスカッションが活発とならない部分もあった。今後は小グループでのディスカッションも織り交ぜつつ、履修者の積極性を引き出すような工夫のあり方を検討したいと考えている。